

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第22号

発行日●平成25年6月10日

編集/発行●浄土宗平和協会(JPA)

発行人●荻野順雄

YEAR BOOK

Jodo Shu Peace Association

今回のダーナの巻頭ページでは、2011年12月に宗務庁人権同和室長就任された山北光彦師にお話を伺った。

浄土宗平和協会の担当部局の代表として、浄平協の期待することをお話しいただいた。

●
浄土宗平和協会には、個人的には思い入れがあります。というのは、前進である浄土宗平和推進協議会設立にあたり、宗務庁の担当者として、過日ご遷化された長島善雄前理事長を始めとする「平和」への情熱あふれる方々とともに奔走したからです。設立の当時には、まだ社会的にもNGOやNPOは認知度も低く、ましてやそれらの活動団体を支援する団体を設立するなど、理解を得ることは難しい局面もありましたが、平和を願う心が共感の輪を広げていったのだと記憶しています。今、改めて人権同和室長として、大きく発展した浄平協に関わることになり、関係各位のご努力に感謝するとともに、うれしく思います。

現代社会は、価値観が多様化し、人間関係が希薄化する中、宗教が果たすべき役割は大きいのではないかと多方面から期待が寄せられています。しかしながら、その期待に充分に応えきれていないと感じますが、我が浄土宗も例外ではないと思っています。先の東日本大震災では、多くの宗教者、特に若い世代のみなさんが、自発的に被災地で様々な活動に参加し、今も引き続き活動を続けていただいていることは、たいへん頼もしく思います。

一過性の支援をすることはある意味容易いことです。逆に恒久的、永続的

山北光彦室長に聞く より「平和」を希求し 更なる飛躍を望む

な活動を続けることは、たいへん難しいことではありますが、それこそ教団が取り組むべき課題だと感じています。そう思えば、設立から変わらず「平和」を希求し、継続して活動する浄平協の活動は、評価されるべきものだと思います。ましてや、ブックギフトや浄土宗平和賞など、新たな活動を創造し、自立した団体として成熟しつつあることは敬服に値するものだと思います。浄土宗平和賞が、今回から浄土門主猊下から贈呈していただくことになったのも、その現れだと思います。

800年大遠忌を契機に、教団はもちろんですが、宗内の各種団体がそれぞれの役割と、社会に対する貢献を改めて見直そうとしているように感じます。それぞれの団体が、自立した団体として活動を活性化しながら、互いが融合し大きなうねりとなって、世界平和の実現に一步でも近づくことができばうれしく思います。

浄平協には、NPO法人化も視野に入れながら更なる精進を期待します。

浄土宗人権同和室長・山北光彦



山北光彦人権同和室長

第5回浄土宗平和賞

中野見夫師（尾張教区観音寺住職）が受賞 子どもを守る市民活動続ける

浄土宗平和協会平成25年度総会は5月17日、宗務庁（京都）講堂で行われ、その席上、「第5回浄土宗平和賞」の授賞式が行われた。今回受賞したのは、1970年、長男を水難事故で亡くし、あいつぐ水難事故の防止を訴え市民運動を続け、行政側に対し柵のない水路に管理責任を認めさせるなど地道な活動を続けてきた尾張教区観音寺（一宮市）住職中野見夫師、プレゼンターの大本山百万遍知恩寺法主服部法丸台下より、賞状、副賞の彫金レリーフ（日展参与三橋國民氏制作）、副賞50万円の目録を授与された。総会では、記念講演として、市民参加のお寺応典院などの活動で知られる大阪教区大蓮寺住職の秋田光彦師が「寺はコミュニティの縁側」と題して講演した。

浄土宗平和賞は、社会参加する寺院、住職を顕彰しようと、平成21年より設けられた。選考は、4月に行われた浄土協理事会で、推薦された3件（団体、個人）より、選抜された。

今回受賞した中野師は昭和14年生まれ、中学教諭退職後、観音寺住職。1970年に当時3歳の長男を水難事故で亡くした。当時、柵のない水路が当たり前の時代、こうした柵のない水路で水難事故が相次いだため、「柵作り」の市民運動を立

ち上げ、一宮市では全国に先駆け柵作りに取り組むこととなった。この運動は全国に波及し、それまで親の責任とされていた水難事故も、行政側の管理責任が問われるようになった。危険箇所調査や安全パトロールを催し「子どもの安全と健康を守る会」として40年に渡り活動している。この運動により保守的な土地に市民意識を目覚めさせる結果にも繋がっていった。

子どもたちの生存権を守るため、行政等と連携し環境の整備に努めると共に、生きるものすべての生存権を奪う戦争のない世界にするための「憲法九条を守る運動」や子どもたちに戦争の悲惨さを伝える公演など各種市民団体とも連携して「いのち」と「平和」の大切さをテーマに精力的に活動している。平成16年には第52回中日社会功労賞を受賞。



服部台下より表彰される中野師

平和賞をいただいて

尾張教区城北西組観音寺・中野見夫

今回図らずも、第5回浄土宗平和賞を授与されることになり、去る5月17日に宗務庁講堂で、大本山百万遍知恩寺・服部法丸台下から賞状をいただきました。さらに、昭和45年に自坊裏の青木川に転落し、行方不明になった長男智見のことや、その後の捜索とサク作り等の市民運動や平和運動についてまで、台下からお言葉を賜り、大変恐縮しています。

今回の平和賞の対象になりましたのは、43年間にわたるサク作り等の子どもの生存権を守る成果（全国の子どもの水死者は21分の1に減少）や、生きるものすべての生存権を奪う戦争に反対する、長年の具体的な平和運動への取り組みだったと思います。

思えば、大阪で万博が始まった昭和45年4月16日に長男智見の事故がありました。高度経済成長で川の汚

れがひどく、なかなか見つけることができませんでした。伊勢湾まで25キロを寝る間も惜しんで探し続けました。そして、58日経った6月12日の夕方、転落地点から5キロ下流の青木川堤防に私が車を止めると、待っていたかのように智見が流れてきました。すぐに飛び込んで抱き上げようとしたのですが、顔の肉がくずれ落ちそうになりましたので、警察や家族が現場に着くまで1時間40分の間、流れてくる水草を払いのけながら、川の中で智見を抱き続けていました。

その年、人口21万人だった一宮市



中野師が自主制作した平和を訴えるCD

で、9人の子どもたちが川に消えました。しかし、当時は子どもの水死は、すべて本人と親の責任ということで、全国に1メートルの防護サクもありませんでした。その夏、妻と二人で「一宮市内の河川・用排水路にサクを作ろう!」と、サク作りの市民運動を訴えました。「58日目に父親が自らわが子を抱き上げた」というドラマチックな出来事が、新聞やテレビで大きく報道されましたので、約1ヶ月で1万人近い署名が集まり、9月市議会において請願が全会一致で採択され、全国で初めて自治体によるサク作りが始まりました。

その成果はすぐに現れ、サク作りは周辺自治体から全国へと広がっていきました。裁判所も、安全対策を第一に考える判決を出すようになりました。

10年ほど経って、市民運動の仲間や市内の母親たちと「戦争を許さない市民の会」を結成して、反核・反戦の市民運動を始めました。第3回国連軍縮総会への600万署名にも参加し、愛知県や一宮市での種々の平和運動に取り組みました。

私は個人的には、世界に、子どもたちに被爆の記録を贈る「写真集づくり運動」や、「10フィート運動」にも力を入れました。広島への平和行進や「憲法9条を守る運動」も、宗教者や市民の皆さんと続けています。また、10年前から「いのちの讃歌」というテーマで、シャンソン付きの講演や法話を各地でやっています。もう300ヶ所になります。ここ2、3年は、戦争資料館「ピースあいち」の戦争の語り人の一員として、小学校へも出かけています。

「念仏だけでは、いのちも平和も守れない」「宗教者はいいことは言うが、その実現のための努力に消極的だ」とも言われますが、私も同感で

す。私たち宗教者は、いのちの軽いと言われる今こそ、行動に移すべきだと思います。私も今後、「平和賞」に恥じない、いのちと平和を守るための生き方と活動を続けていきたいと思えます。推薦していただいた深谷雅子様と、審議していただいた皆様には心から感謝しています。ありがとうございました。



受賞の喜びを語る中野師

浄土宗平和賞とは？

昨年、改めて「社会参加する仏教」という言葉が提唱されています。本来、宗教的救済すなわち教化と、社会事業の実践は不可分であるといえましょう。

時代の急激な変化が大きな社会矛盾を抱え込むこととなった明治期、貧困の救済をテーマに各宗派・各教団が積極的に慈善事業に取り組み、足尾銅山鉞毒事件や東北地方の大飢饉の災害救済活動にも、宗派を挙げての活動が成果を挙げました。また我が宗に於いては、児童擁護施設の建設や児童教育のほか、

渡辺海旭師の主導のもと、各種の貧困対策事業が開始されています。これらは、後に大きく発展する浄土宗の社会福祉事業の礎となりました。

現代に目を移すと、戦後の高度成長時代を経て、日本の社会は大きく変化を遂げ、共同体や家族の崩壊は数々の社会問題を引き起こしています。このような状況において地縁・血縁を基とした伝統的寺院のあり方に加え、地域コミュニティの再構築、共同体の回復の核となる役割も期待されています。かつて

は貧困の救済が主なテーマであった各社会事業も、現代においてはグローバル化や社会問題の複雑化に伴い、多岐にわたる対応が求められています。

本協会は「共生（ともいき）」の理念を基に、一切の生きとし生けるものの安寧と平和を願う仏教者として、「社会参加する仏教」を推進しています。この度の「浄土宗平和賞」の創設は、各地で積極的に社会活動をなさっているご寺院・教師・寺族等の方々を顕彰すると共に、その活動内容等を広く会員にご紹介することによって、公益に資する未来の寺院のあり方のモデルとなり、格好のケーススタディと成り得ると考えています。

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会（JPA）では、浄土宗劈頭宣言にある「愚者の自覚」に立ち、「世界と共生する」ために、平和の問題に取り組み。具体的には皆さまから寄せられる浄財・平和念仏募金によりNGO支援、ブックギフト活動、浄土宗平和賞、スタディーツアーなどの事業を行っております。

会報ダーナでは、昨年度の事業を報告するとともに、平成25年度の運営などを報告いたします。

第7回スタディーツアーはネパールへ

第7回スタディーツアーは、ネパール、インドを訪れた。全国から14名が参加し、浄平協が支援している反差別国際運動（IMADR）の活動地ネパールを訪れた。地元のダリット（差別されている人の総称）の人々が作る団体や活動地を訪れた。また、その後インドへ入り、釈尊涅槃の地クシナガール、生誕の地ルンビニを訪れた。

ブック・ギフト in Tokyo/in Kansaiを実施

浄土宗平和協会は私費留学生希望図書支援事業「ブック・ギフト」の、書籍授与式を東京では12月2日、東京都港区芝の浄土宗大本山増上寺で、京都では12月9日大本山知恩寺で行った。東京、関西（京都）あわせて20の大学から5カ国42人の応募があり、小論文「私の好きな日本の風景」を寄せてくれた留学生33人が、希望の図書を受領した。

- 応募総数
26人（東京） 15人（関西）
- 授与式参加人数
21人（東京） 12人（関西）
- 応募者国籍
中国20名、韓国4名、台湾1名、香港 [英国] 1名（東京）
中国10名、韓国2名、ヴェトナム3名（関西）
- 応募者大学別一覧
立教大学2名、青山学院大学2名、早稲田大学2名、昭和女子大学1名、武蔵野音楽大学1名、東京農業大学2名、拓殖大学2名、東洋大学1名、東京大学2名、東京外国語大学1名、順天堂大学3名、武蔵野大学1名、駒沢大学4名、一橋大学2名（東京）

大阪大学5名、同志社大学4名、京都大学2名、滋賀医科大学2名、大谷大学1名、京都文教大学1名（関西）

- 応募者在籍一覧
大学院14名、大学12名（東京）
大学院6名、大学7名、研究生2名（関西）

第5回浄土宗平和賞 中野見夫上人に授与

5月17日、宗務庁(京都)講堂平和賞授賞式が行われた。今回受賞したのは、1970年、長男を水難事故で亡く

平成24年 平和念仏募金によるNGO支援実績

団体	プロジェクト名	援助額
① 日本国際ボランティアセンター（JVC）	紛争地における子どもの栄養支援（パレスチナ・ガザ地区）	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	パレスチナ・ガザ子どもセンターでの活動	¥500,000
③ 反差別国際運動（IMADR）	ネパールダリット女性の保健教育プロジェクト	¥500,000
④ ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵人権問題解決の丘陵委員会の活動	¥500,000
⑤ NPO法人ユニ	ラカインプロジェクト	¥150,000
⑥ 国際子ども権利センター	カンボジア人身売買・児童労働防止のための啓発ネットワーク	¥650,000
計		¥3,000,000

し、あいつぐ水難事故の防止を訴え市民運動を続け、行政側に対し柵のない水路に管理責任を認めさせるなど地道な活動を続けてきた尾張教区観音寺（一宮市）住職中野見夫師、プレゼンターの大本山百万遍知恩寺法主服部法丸台下より、賞状、副賞の彫金レリーフ（日展参与三橋國民氏制作）、副賞50万円の目録を授与された。浄土宗平和賞は、社会参加する寺院、住職を顕彰しようと、平成21年より設けられた。

浄平協会員573人に

浄土宗平和協会は平成19年度から、会員制をとり、全国のご寺院、ご住職、寺族のみなさまに、会員になっていた。本年度、初めて会員数573人と対前年比47人の増加をいただいた。賛助会員は法人会員10件、檀信徒会員27名。みなさまのご理解を得て、なおいっそうの会員拡充、支部の設立などを呼びかけていく。

平成24年度 浄土宗平和協会事業報告

平成24年4月～平成25年3月

平成24年			
4月11日（水）	第1回理事会	13:30～	東京宗務庁
5月7日（月）	監査会	13:30～	京都宗務庁
5月9日（水）	東京事務局会	16:00～	九品寺
	平成24年度総会	13:30～	東京宗務庁
5月17日（木）	第4回浄土宗平和賞贈呈式・NGO活動紹介	15:00～	東京宗務庁
5月23日（水）	共生子ども連絡会議	14:30～	京都宗務庁
7月	ブック・ギフト in Tokyo in KANNSAI 応募要項配布 会報ダーナVOL.20（年次報告書）発行、会費請求、 会員募集		
9月	ブック・ギフト in Tokyo in KANNSAI 応募者受付開始 平成24年9月1日～10月1日まで		
11月19日（月）	東京事務局会	16:00～	九品寺
11月	第5回浄土宗平和賞募集（12月号宗報掲載）		
12月2日（日）	第5回ブック・ギフト in TOKYO 授与式	15:00～	大本山増上寺
12月3日（月）	平成25年度予算折衝	13:30～	京都宗務庁
12月9日（日）	第2回ブック・ギフト in KANNSAI 授与式	15:00～	大本山知恩寺
12月12日（水）	第2回理事会、 第1回正副理事長会議	13:30～	東京宗務庁
12月	会報ダーナVOL.21発行、平和念仏募金お願い		
平成25年			
1月31日（木）	第5回浄土宗平和賞募集締め切り		
2月18日（月） ～25日（月）	第7回スタディーツアー		
3月14日（木）	第2回正副理事長会議	13:30～	東京宗務庁

平成24年度 浄土宗平和協会収支決算書

（自：平成24年4月1日 至：平成25年3月31日）

■収入の部

款	項	予算額	決算額
(1) 会費		4,500,000	4,772,000
	①正会員会費	4,300,000	4,660,000
	②賛助会員会費	200,000	112,000
(2) 寄付金		2,100,000	2,079,588
	①平和念仏募金	2,000,000	2,079,588
	②緊急募金	100,000	0
(3) 助成金		1,750,000	1,750,000
	①浄土宗助成金	1,750,000	1,750,000
(4) 雑収入		30,000	5,572
	①雑収入	30,000	5,572
(5) 繰入金		1,297,642	597,642
	①前年度繰入金	597,642	597,642
	②基金繰入金	700,000	0
収入合計		9,677,642	9,204,802

■支出の部

款	項	予算額	決算額
(1) 事業費		7,010,000	6,819,560
	① NGO 団体支援金	3,000,000	3,000,000
	②緊急救援資金	100,000	0
	③ブック・ギフト費	800,000	612,024
	④平和大会等関連費	550,000	547,275
	⑤会報費	2,400,000	2,447,791
	⑥啓発・普及費	10,000	0
	⑦スタディーツアー関連費	100,000	102,470
	⑧各種団体連帯費	20,000	30,000
	⑨調査研究連帯費	30,000	80,000
(2) 会議費		1,189,000	596,000
	①総会費	150,000	30,000
	②理事会費	600,000	361,235
	③正副理事長会費	179,000	68,365
	④事務局会費	260,000	136,400
(3) 事務費		1,010,000	947,988
	①事務費	1,000,000	947,988
	②旅費	10,000	0
(4) 繰出金		0	0
	①基金繰出	0	0
(5) 予備費		468,642	61,371
	①予備費	468,642	61,371
支出合計		9,677,642	8,424,919

平和基金	
平和基金	17,741,254

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会は平成25年、会員数も増え573人（正会員）を超えました。当面、全浄土宗寺院の10%、700人の会員を目指します。また、平和念仏募金によるNGO支援（会則変更で、昨年からは初動500万円の寄付が出来るようになりました）や、ブック・ギフト、浄土宗平和賞も、順調です。ブックギフトは、ことしは新たに名古屋市でも行うこととなりました。国内各NGO団体よりの信頼も厚くなり、またブック・ギフトの留学生に対する浸透も、進んでいるように存じます。

浄土宗の公益団体として、内外ともに認められ、自立した事務局体制を構築するよう努力して参る所存です。本年度もどうぞ、浄平協（JPA）のご支援をよろしくお願い申し上げます。

第6回ブックギフト in Tokyo in Kansai そして in Nagoyaに 第6回浄土宗平和賞を実施します

昨年から、東京、関西と2地区で開催されましたブックギフト事業を、本年度は名古屋市でも行うこととなりました。応募者も、東京関西ともに、著名な大学、大学院、研究生など優秀な人材が、応募して頂いております。東京では11月30日（大本山増上寺）、関西では12月1日（大本山百万遍知恩寺）授与式開催、新たに名古屋では12月22日（建中寺）の開催になります。

6回目を数える浄土宗平和賞は、宗教マスコミなどにも大きく取り上げられ、優秀な宗内の人材を顕彰することができて、平和協会一同感謝をしております。本年度も会員様の推薦により、候補を決め、来年3月に決定する予定です。会員様の推薦をよろしくお願い申し上げます。

会員加入を呼びかけ、 会の基盤を充実します

平成24年度末で会員数573人（団体）、賛助会員37人（団体）となりました。皆さまのご理解ご協力を感謝いたします。

本年度は、浄土宗保育協会、浄土宗スカウト連盟、浄土宗児童教化連盟と協働してポスター配布を全国の御寺院におこないます。よろしくお願いします。

今年も平和念仏募金、NGO支援を行います

平成10年度から全浄土宗御寺院のご理解の元、行っております平和念仏募金の呼びかけを今年度もまた12月に行う予定です。

平成25年 平和念仏募金による支援NGO一覧

団体	プロジェクト名	援助額
① 日本国際ボランティアセンター（JVC）	アフガニスタン・ナンガハル県北東部における住民主体の生活改善事業	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	シリア避難民の子どもたちの幼稚園への受け入れと栄養改善	¥500,000
③ 反差別国際運動（IMADR）	ネパールダリット女性の保健教育プロジェクト	¥500,000
④ ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵人権問題解決の丘陵委員会の活動	¥500,000
⑤ NPO法人ユニ	ラカインプロジェクト	¥200,000
⑥ 国際子ども権利センター	カンボジア人身売買・児童労働防止のための啓発ネットワーク	¥600,000
計		¥3,000,000

平和念仏募金を原資としたNGO支援は、ネパール、パレスティナ、バングラデシュなどで活躍する日本のNGOへ助成され、有効に活用されております（詳しくは表参照）。規定として、一事業5年という期間を設け、NGOの事業にも自立を促すような構造になっております。

また、今年新たに日本国際ボランティアセンター（JVC）のアフガニスタンの子どもと女性の健康を守る事業、パレスティナ子どものキャンペーンのシリア避難民の子どもたちの栄養改善事業に支援を始めました。

平成25年度 浄土宗平和協会事業計画

平成25年4月～平成26年3月

平成25年			
4月16日（火）	東京事務局会	16:00～	九品寺
4月25日（金）	第1回理事会	13:30～	京都宗務庁
5月10日（金）	監査会	13:30～	京都宗務庁
	平成25年度総会	13:30～	京都宗務庁
5月17日（金）	第5回浄土宗平和賞贈呈式・NGO活動紹介	15:00～	京都宗務庁
5月21日（火）	共生子ども連絡会議	11:00～	京都宗務庁
6月	平成25年度会費請求、会員募集		
	ブック・ギフト 応募要項配布		
7月	会報ダーナVOL.22（年次報告書）発行		
	第1回正副理事長会議		東京宗務庁
9月	ブック・ギフト 応募者受付開始		
11月	第6回浄土宗平和賞募集		
11月30日（土）	第6回ブック・ギフト in TOKYO 授与式	15:00～	大本山増上寺
12月1日（日）	第3回ブック・ギフト in KANSAI 授与式	15:00～	大本山知恩寺
12月22日（日）	第1回ブック・ギフト in NAGOYA 授与式	14:00～	建中寺
	第2回理事会		東京宗務庁
12月	平成26年度予算折衝		京都宗務庁
	会報ダーナVOL.23 発行、平和念仏募金のお願い		
平成26年			
1月	第6回浄土宗平和賞募集 締め切り		
3月	第2回正副理事長会議		東京宗務庁
専門委員会	随時		
東京事務局会	随時		
緊急募金	随時		

平成25年度 浄土宗平和協会収支予算

（自：平成25年4月1日 至：平成26年3月31日）

■収入の部

款	項	25年予算額	24年予算額
(1) 会費		4,700,000	4,500,000
	①正会員会費	4,600,000	4,300,000
	②賛助会員会費	100,000	200,000
(2) 寄付金		2,100,000	2,100,000
	①平和念仏募金	2,000,000	2,000,000
	②緊急募金	100,000	100,000
(3) 助成金		1,750,000	1,750,000
	①浄土宗助成金	1,750,000	1,750,000
(4) 雑収入		10,940	30,000
	①雑収入	10,940	30,000
(5) 繰入金		1,479,883	1,292,616
	①前年度繰入金	779,883	592,616
	②基金繰入金	700,000	700,000
収入合計		10,040,823	9,672,616

■支出の部

款	項	25年予算額	24年予算額
(1) 事業費		7,030,000	7,010,000
	① NGO 団体支援金	3,000,000	3,000,000
	②緊急救援資金	100,000	100,000
	③ブック・ギフト費	800,000	800,000
	④平和大会等関連費	550,000	550,000
	⑤会報費	2,300,000	2,400,000
	⑥啓発・普及費	10,000	10,000
	⑦スタディツアー関連費	10,000	100,000
	⑧支部事業助成費	200,000	0
	⑨各種団体連帯費	30,000	20,000
	⑩調査研究連帯費	30,000	30,000
(2) 会議費		1,189,000	1,189,000
	①総会費	150,000	150,000
	②理事会費	600,000	600,000
	③正副理事長会費	179,000	179,000
	④事務局会費	260,000	260,000
(3) 事務費		1,010,000	1,010,000
	①事務費	1,000,000	1,000,000
	②旅費	10,000	10,000
(4) 繰出金		700,000	0
	①基金繰出	700,000	0
(5) 予備費		111,823	463,616
	①予備費	111,823	463,616
支出合計		10,040,823	9,672,616

平和基金	
平和基金	17,741,254

浄土宗平和協会 第7回スタディツアーを実施

釈尊降誕の地、涅槃の地を訪ね カースト差別の現実を学ぶ旅に14名が参加

浄土宗平和協会は、「釈尊誕生の地・涅槃の地を訪ねカースト差別の現実を学ぶ旅」と題して荻野順雄団長、深谷雅子副団長のもと総勢14名、2013年2月18日～25日の8日間、第7回スタディツアーを行いました。今回のスタディツアーでは、浄平協の支援団体である「IMADR」（反差別国際運動）と、この団体が現地ネパールで支援している「FEDO」（フェミニスト・ダリット協会＝

本部カトマンドゥ）が活動しているネパール南東部ビルガンジのバルサ支部の活動を視察いたしました。また、仏跡には釈尊涅槃の地インドクシナガラと誕生の地ネパールルンビニへの荻野団長導師による参拝。首都カトマンドゥ近郊に点在するヒンドゥー教寺院や巨大なストゥーパが有名な仏教寺院へも参拝・観光をいたしました。

さて、ネパールには隣国インドと同様にかつてカースト制度がしかれていました。この制度による差別は今も根強く残っています。ネパールのカースト制は、ヒンドゥー教による4つのカースト制度、ブラーミン（司祭）・チェトリ（武将）・ヴァイシャ（職人）・スードラ（使役人）と分

けられていました。そして、浄平協の支援先でもあり今回のスタディツアーのキーワードとなる「ダリット」とは、前記のカースト制度からも外されているため、アウトカースト、不可触民（アンタッチャブル）、不浄などとよばれることがあります。ダリットの人びとは自らのことを「壊

されし人びと＝ダリット」と名乗りました。

そして、上位カーストの家に入ることは許されない、寺院や茶店などの公共の場所に入ることは許されない、ほかさまざまな差別を受けてきました。しかし1963年のネパールの民法でカースト（不可触制）は廃止。さらに、2007年暫定憲法はネパールを“不可触制のない国”と宣言されたはずにもかかわらずカーストの慣行は今も存在しています。

ダリットはネパールの人口の約13%を占め、約344万人います。ダリット世帯の所得水準は国内で最も低くブラーミン（司祭）チェトリ（武将）の約半分以下で、教育や保健の面にも影響が及んでいます。それでは、国内に9%という少数ではあるけれど、カースト差別の無い仏教徒に改宗しようという人びともいるようですが、圧倒的多数であるカーストという慣行からは逃れられないのが現実だということです。またその一部の仏教集団はネオブディズム（新宗教）であり開祖崇拜の傾向もあ



FEDO（フェミニスト・ダリット協会）本部にて



FEDO/バルサ支部の村人と共に

るという情報もありました。

ネパールにも女性の性差別があり、ネパールの女性は家父長的な伝統により抑圧されてきました。それは幼児期から始まり、少女の中には学校へ行けない子どもがいて、女性の識字率はわずか48.94%、男性は71.4%という格差があります。そして女性は経済や財産に関して男性に依存しなくてはならない結果が生じます。ダリット女性は、女性として差別をされ、ダリットとして差別され、ゆえにダリット女性として差別されるのです。ダリット社会の中においてもダリット女性は女性であるがゆえに差別されているのです。

DV、強姦、月経に対する慣習による差別、異カーストとの結婚禁止などがあり、すべての女性の間でも、ダリット女性はダリットであるがゆえに差別されカースト差別をうけています。さて、前記のFEDO（フェミニスト・ダリット協会）は、1994年にダリット女性

たちがネパール社会における差別的な地位を向上させ“公正で平等な社会”を作るために設立しました。今ではネパール全75郡の内56郡に支部を置き、ダリット女性の問題を社会に訴え女性の生活水準を高めるために権利擁護、教育、保健、経済的な平等公平、政治的参加、ダリット女性の状況に関する一般への意識高揚を目的に活動しています。すなわち現在では「自立」・「草の根活動による活動周知」・「地域グループ作り」・「保健（結核、HIV、ハンセン病）」・「権利」・「活動資金積み立て」・「社会参加」などの具体的な活動がされています。

私たち浄平協一行が訪問したFEDO本部ではネパールで現在活動している56郡の活動と現況の報告をいただき、浄平協の平和念仏募金により実際の活動がされているFEDOのバルサ支部、シルシャカルワトラ村、シャンティ女性講グループの町、各所

へ訪問し活動のダリット女性や男性スタッフから歓迎と活動報告を受けました。また、こちらからは記念テナントとグループで必要な電卓や掛け時計などをお土産に贈呈し、深谷副団長と現地の皆さんによる“ちぎり絵”作成をし、楽しく交流ができました。今回のスタディツアー参加の皆さんの実感として、これまでの支援の成果を目の当たりにできた事、これからダリット女性が自立していくためには継続したこれからの支援がとても大切だということでした。



FEDOピスワカルマさんにテナントを贈る



FEDO本部にて研修



村人に電卓を贈る

【第7回スタディツアー参加者（敬称略）】

荻野順雄、荻野博子、深谷雅子、能登泰子、澤木洋子、稲村博道、川田光博、荒井博之、嘉藤哲也
魚住浩子、幸島久子、岡田紀江、兼岩展子、川副蓮実、

以上14名



第37回正力松太郎賞に浄土宗平和賞の受賞者二人が受賞

第37回正力松太郎賞の受賞者が、3月13日に開催された選考委員会にて決定いたしました。青少年を取り巻くさまざまな社会問題が取り沙汰されている昨今、青少年とともに、ひたむきに仏教

の示す生活を歩んでいる活動者を広く紹介することは、平和活動や教育や保育の現場に一つの指針を示すことにもつながる賞です

平和賞受賞者で、正力松太郎賞を受賞するのは、正力松太郎賞・青年奨励賞に大河内大博さん(大阪府大阪市/浄土宗願生寺副住職=第1回浄土宗平和賞受賞)、正力松太郎賞特別賞・震災支援功労賞にTerra Net(代表 堀真哲さん

浄土宗福岡教区眞福寺副住職=第3回浄土宗平和賞受賞)の二人。ほかに浄土宗関係では「浜〇かひえ」(代表 柳内悦大さん/浄土宗良善寺副住職)が受賞している。受賞式はこの秋、東京で行われる。

新事務局員に 斉藤美香さん

東京事務局の新事務局員に斉藤美香さん(東京教区北部組浄光寺所属)が選ばれました。会費の入金処理や、各種庶務を行っていただきます。

共生こども連絡会議で 今年もポスターを

浄平協ほか、浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟、浄土宗スカウト連盟で作る「共生こども連絡会議」は、5月21日京都宗務庁で会議を開き、昨年度に引き続き、連合ポスターを作ることを決定しました。6月には全国の御寺院に、文化出版局制作のポスターと共に発送されます。



平成26年スタディーツアーは、NYグラウンド・ゼロでの祈り

平成26年のスタディーツアーは、アメリカニューヨークの、9.11テロ事件の現場ワールドトレードセンターが立っていたグラウンド・ゼロで、犠牲者の追悼を行うと共に平和を祈ります。来年9月1日から10日までの予定。今年年末のターナで予約開始、詳細をお知らせします。

来年は9.11から13年目を迎えます。そのテロの象徴であるグラウンド・ゼロでの追悼式のほか、ニューヨークや古都ボストンで、アメリカ・プロテスタントの教会などを訪れます。



旧ワールド・トレード・センター(グラウンド・ゼロ)

今回の「私も浄平協会員」は、尾張教区城南組清澄院の兼岩展子さん。清澄院現住職・兼岩春臣師の実姉としてお寺に生まれ育ち、長年寺族として清澄院を支えてこられました。また、同院を経営母体とするきよすみ保育園に短大をご卒業後に奉職、現在では副園長として、幼児教育に精励されています。

私も浄平協会員

尾張教区清澄院 兼岩展子さん



浄土宗平和協会との出会いは、平成20年のインドへのスタディーツアーに参加したことからです。お寺に生まれながらも、実際の法務や寺務に深く携わっていたわけではなく、浄土宗平和協会という名称すらも、それまで存じ上げていたわけではありませんでした。スタディーツアーに参加するにあたって、同じ教区の様子で、浄平協理事の深谷雅子さんにご紹介いただいたことがきっかけでした。

スタディーツアーではカルチャーショックを受けました。それまで海外旅行を経験したことがなかったわけではありましたが、何しろ観光目的の旅行では行くことのない場所や文化、現地の生活にふれるわけですから。自分たちが、豊かな日本、恵まれた環境の中で生活していることを実感するよい機会となりました。

それからスタディーツアーには欠かさず参加をしています。行くたびにすばらし

い企画に感謝し、貴重な体験を重ねられることをありがたく思っています。親しい周囲の人たちに話をすると、「なぜ好き好んでそんな危険な場所に」と驚かれることもありましたが(笑)。

今、保育園の仕事をしていますので、途上国の現状を知ってほしいとの願いで、子どもたち、あるいは保護者のみなさんにも時にはスタディーツアーの体験談等をお話することもあります。

浄平協の活動は、実はスタディーツアー以外は、あまり詳細を承知しているわけではないのですが、平和を希求する大切な活動を推進していらっしゃるのだと理解しています。いずれにしても、私たちの生活は利便性が高まり、それが豊かさだと思いがちですが、様々な国の人々にふれるにつれ、自然にふれ、自然に生きることに豊かさを感じたりもします。何が本当の平和なのか、これからも一会員として考えていきたいと思っています。

浄土宗平和協会（JPA）

◎ 会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



平和、共生、みんなのために

[入会要項] 浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

◎ 正会員

対象……浄土宗教師・寺族
会費……年間10,000円

◎ 賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会費……檀信徒会員 年間 2,000円
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダナーに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。

◎ 平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある愚者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一との方針のもと、国

際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……荻野順雄	監事……塩竈義明
副理事長……小泉顕雄	村上真瑞
理事……小林正道	専門委員……戸松義晴
理事……橋田邦俊	茂田真澄
石上源應	事務局次長……服部光雅
山川正道	事務局……中野隆英
深谷雅子	杉浦靖俊
金田進徳	齋藤隆尚
東海林良雲	鍵小野和敬
泉 禮子	大島康裕
事務局長……川副春海	嘉藤哲也
	齋藤美香

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-12-18

電話03-3855-8781 Fax03-3855-8782 メールjpa-info@jodo.or.jp

郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】

